

## 第15条 タックル



### 定義

ボールキャリアーが、一人または複数の相手プレーヤーに捕まり地面に倒された場合に、タックルが成立する。捕まえていなければ、「タックルされたプレーヤー」とはならず、従ってタックルは成立しない。

相手プレーヤーで、ボールキャリアーを捕まえて地面に倒し、かつ自身も地面に倒れたプレーヤーを「タックラー」と呼ぶ。ボールキャリアーを捕まえていても地面に倒れなければ「タックラー」ではない。



タックル

### 15.1 タックル

タックルはフィールドオブプレー内においてのみ起る。

### 15.2 タックルが発生しない場合

ボールキャリアーが相手側プレーヤーのひとりによって捕らえられ、ボールキャリアーの味方のプレーヤーがそのボールキャリアーにバインドする場合、モールが形成されたことになり、タックルが発生したとはみなさない。

### 15.3 「地面に倒される」ということの定義

- (a) ボールキャリアーの片膝または両膝が地面につけば、そのプレーヤーは「地面に倒された」とみなす。
- (b) ボールキャリアーが地面に腰を下すか、地上に横たわっているプレーヤーの上に倒れていれば、そのプレーヤーは「地面に倒された」とみなす。

### 15.4 タックラー

- (a) プレーヤーが相手側プレーヤーをタックルして双方が地面に倒れたとき、タックラーは直ちにタックルされたプレーヤーを離さなければならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (b) さらにタックラーは直ちに立ち上がるか、タックルされたプレーヤーとボールから直ちに離れなければならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (c) タックラーはボールをプレーする前に立ち上がらなければならない、立ち上がった後は、どの方向からボールをプレーしてもよい。  
**罰：ペナルティキック**

### 15.5 タックルされたプレーヤー

- (a) タックルされたプレーヤーは、ボールの上に、ボールをおおって、またはボールに近接して横たわって、相手側がボールを獲得するのを妨げてはならないし、プレーの継続のため、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (b) タックルされたプレーヤーは直ちにボールをパスするか、ボールを手放さなければならない。さらにそのプレーヤーは直ちに立ちあがるか、ボールから離れなければならない。  
**罰：ペナルティキック**

## 第15条 タックル



- (c) タックルされたプレーヤーはボールをいずれかの方向に置くことによってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。

**罰：ペナルティキック**

- (d) タックルされたプレーヤーは地面上でいずれかの方向にボールを押し進めること（前方にではなく）によってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。

**罰：ペナルティキック**

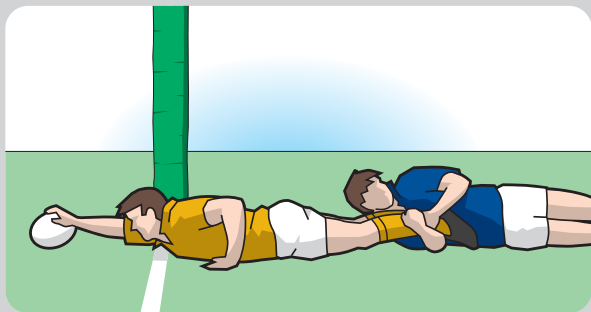
- (e) 立っている相手プレーヤーがボールをプレーしようとする場合、タックルされたプレーヤーはボールを放さなければならない。

**罰：ペナルティキック**



タックルされたプレーヤーは、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない

- (f) タックルされたプレーヤーが惰性でインゴールに入れば、そのプレーヤーはトライまたはタッチダウンをすることができる。
- (g) プレーヤーがゴールライン付近でタックルされた場合、これらのプレーヤーは直ちに手を伸ばしボールをゴールライン上またはゴールラインを越えてグラウンディングし、トライまたはタッチダウンをすることができる。



ゴールライン付近でタックルされたプレーヤーは、手を伸ばしボールをグラウンディングし、トライすることができる。

### 15.6 その他のプレーヤー

- (a) タックル後は、他のいずれのプレーヤーも立っていなければボールをプレーすることはできない。立っているプレーヤーとは、足以外の体の部位が、地面、または地上に横たわっているプレーヤーにもたれかかっていないプレーヤーのことである。

**罰：ペナルティキック**

**例外：**ボールがインゴールに入った場合。ゴールライン近くでのタックル後、ボールが手放されインゴールに入った場合、地上に横たわっているプレーヤーを含め、プレーヤーはいずれもボールをグラウンディングすることができる。

## 第15条 タックル



タックル後、プレーヤーはすべて、ボールをプレーする際には立っていなければならない。



タックルの際、立っていないでボールをプレーするプレーヤー。

## 第15条 タックル



タックルの際、立っていないでボールをプレーするプレーヤー。

- (b) タックル後は、立っているプレーヤーはいずれも、ボールキャリアーからボールを奪おうとしてもよい。
- (c) ボールキャリアーの相手側プレーヤーがボールキャリアーを地面に倒しタックルが成立したら、立ったままにいる相手側プレーヤーは、ボールとボールキャリアーを放さなければいけない。その後、立っているいずれのプレーヤーも、ボールの後方、かつ、自陣ゴールラインに近い側のタックルされたプレーヤーまたはタックラーのいずれかの真後ろから、ボールをプレーすることができる。  
**罰：ペナルティキック**
- (d) タックルの地点、またはタックルに近接した地点で、ボールをプレーする他のプレーヤーは、ボールの後方、かつタックルされたプレーヤーまたはタックラーのどちらかで自陣ゴールラインに近い方のプレーヤーの真後ろから、プレーしなければならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (e) ボールを獲得したプレーヤーは、タックルの地点から離れるか、パス、あるいはキックして、直ちにボールをプレーしなければならない。  
**罰：ペナルティキック**

## 第15条 タックル



- (f) 最初にボールを獲得したプレーヤーは、相手プレーヤーにタックルされた場合を除き、タックルの地点、またはタックルに近接した地点で地面に倒れてはならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (g) タックルの地点、またはタックルに近接した地点で、最初にボールを獲得したプレーヤーは、相手プレーヤーがボールの後方、かつタックルされたプレーヤーまたはタックラーのどちらかで自陣ゴールラインに近い方のプレーヤーよりも後方から、プレーする限りは、その相手プレーヤーにタックルされることが有り得る。  
**罰：ペナルティキック**
- (h) タックル後は、地上に横たわっているプレーヤーはいずれも相手側プレーヤーがボールを獲得しようとするのを妨げてはならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (i) タックル後は、地上に横たわっているプレーヤーはいずれも相手側プレーヤーをタックルしたり、タックルしようとしてはならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (j) タックル後タックルされたプレーヤーが、トライしようとしてゴールライン上またはゴールラインを越えて、ボールをグラウンディングしようとしているとき、相手側プレーヤーは、そのプレーヤーからボールを奪ってもよい。ただし、相手側プレーヤーはボールをキックしたり、キックしようとしたりしてはならない。  
**罰：ペナルティキック**

### 15.7 行ってはならないプレー

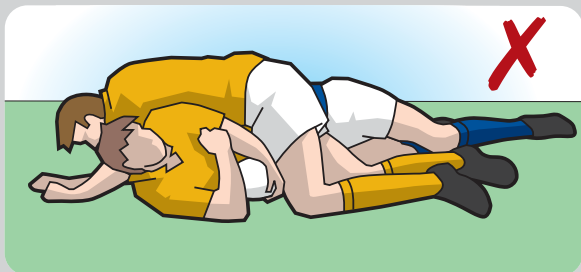
- (a) いずれのプレーヤーもタックルされたプレーヤーがボールをパスすることを妨げてはならない。  
**罰：ペナルティキック**
- (b) いずれのプレーヤーもタックルされたプレーヤーがボールを手放し、立ち上がったたり、ボールから離れることを妨げてはならない。  
**罰：ペナルティキック**

## 第15条 タックル



- (c) いずれのプレーヤーもボールをはさんで、またはボールに近接して地上に横たわっている2人以上のプレーヤーの上に、または越えて倒れ込んで서는ならない。

**罰：ペナルティキック**



いずれのプレーヤーもタックルされたプレーヤーの上に、または越えて倒れ込んで서는ならない。

- (d) 立っているプレーヤーは、ボールに近接していない相手側プレーヤーをチャージまたは妨害してはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (e) 危険性（ボールをパスするか、手放さない場合）：タックルされたプレーヤーが直ちにボールを手放さないか、もしくはボールから離れようとしなにか、またはこのようにすることを妨げられた場合には危険が予想できる。このような場合、レフリーは直ちに罰を科さなければならない。

**罰：ペナルティキック**

### 15.8 どちら側の責任が疑わしい場合

タックルで、ボールがアンプレアブルになり、どちらの側が競技規則に従わなかったのか疑わしい場合、レフリーは直ちにスクラムを命じ、停止の前に前進していた側がボールを入れる。どちらも前進していなかった場合は攻撃側がボールを入れる。